

6 自分たちの町は自分たちで守る！

ち いきぼうさい
～広げよう地域防災の輪～



いざというとき、頼れるのは？

阪神・淡路大震災では、壊れた家の下敷きになってしまった人の多くが、近所の人などの手で助け出されました。新潟県中越沖地震でも、昔からの人のつながりから、食料をみんなで分けあったり、炊き出しをしたり、助け合いの輪が広がりました。



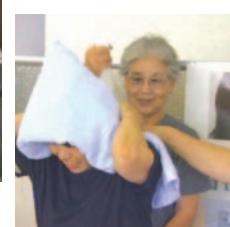
地域での助け合いが大きな力

愛知県では、東海・東南海地震がいっしょに起こると、およそ4万9000もの建物が火事で燃えてしまうといわれています。愛知県にある消防車の数は、約370台。とても間に合う数ではありません。となると、となり近所など、地域の人たちで力をあわせて、少しでも早く火を消すしか方法はありません。



地域で防災活動を！

災害が起ったとき、地域の力をいかすには、日ごろからの防災活動が大切です。避難訓練だけでなく、手づくり防災頭巾の講習会や家具の転倒防止のお手伝い、またお年寄りなど助けを必要とする人がどこにいるかを調べておくことなど、さまざまな活動をしている地域もあります。



子どもたちに防災教育を！

防災について学ぶことは、子どもたちの命を守るだけでなく、子どもたちが生きる力や人を思いやる心を学ぶ機会にもなります。学校や家庭、地域など、さまざまな機会をとおして、防災教育を広げていくことが期待されています。



キーワード

～自分たちの町は自分たちで守ろう！～

災害が起ったとき、本当に頼りになるのは地域の力です。地域にはいろいろな人が住んでいます。学校や会社、商店街や自治会、自主防災組織など、さまざまな組織もあります。それが得意な分野で、力をあわせていくことで、地域の力は何倍も大きくなるのです。



広げよう！防災活動の輪。
いざというときに役に立つのは
地域の力です。

今、住んでいるところで、
私たちができることは何でしょう？
DVDでは、そのヒントになる活動が
取り上げられています。



愛知県防災局

<http://www.pref.aichi.jp/bousai/>

製作・著作・発行 愛知県
監修 福和伸夫（名古屋大学大学院教授）
制作 NHK中部ブレーンズ